

ろうさい病院つうしん

発行所: 中部ろうさい病院

〒455-8530 名古屋市港区港明1-10-6 TEL: 052-652-5511
https://www.chubuh.johas.go.jp/ FAX: 052-653-3533

当院の理念

納得、安心、そして未来へ

当院の基本方針

- ・医療の質の向上と安全管理の徹底
- ・生命の尊厳の尊重と患者さん中心の医療
- ・人間性豊かな医療人の育成と倫理的医療の遂行
- ・地域社会との密な連携と信頼される病院の構築
- ・災害・救急医療への積極的な貢献と勤労者に相応しい高度医療の提供

新年のご挨拶

院長 丸井 伸行

新年あけましておめでとうございます。昨年4月に就任して以来、初めての新年を迎えることができました。

コロナ禍以降は、全国の7割以上の公的病院が赤字となっていると報告されています。当院も厳しい状況ではありますが、昨年度より確かな回復を得ており、他病院に先駆けて新入院患者数はコロナ禍の落ち込みより回復し増加に転じております。日頃からの病診連携でのご協力に感謝申し上げます。新年の挨拶に添えまして、当院からご報告申し上げます。

本年1月に整形外科に3つの専門センターを開設いたしました。「脊椎脊髄センター」、「人工関節センター」、「大腿骨近位部骨折センター」となります。いずれも整形外科標榜の先生方からのご紹介をお願いいたしますが、整形外科領域でお困りの症例の紹介予約を受けさせていただく窓口を、整形外科初診外来に開設いたしましたので、この点もよろしくお願いいたします。

令和5年度より年間6000台を超える救急搬送を受けており、今年度も同等の受け入れを行っております。総合内科外来では内科初診外来に加え「臓器由来がはっきりしない症状」の方の診療を受け入れており予約も可能です。令和7年11月には外来棟南側区域に総合内科外来を移転させ、よりスムーズな受け入れを可能としました。時間内・外を問わず、診療上で困難な症例につきまして、ご紹介いただきますようお願い致します。

令和8年4月より、新しく導入したリニアックの稼働が開始されます。放射線治療医2名を揃え、当院では従来困難であったIMRTに加え、着衣のまま照射可能となる乳がん患者さんに優しい機能も備えております。今後はがん診療に幅広く適応を拡大し、緩和照射も行っております。遠方の患者さんには短期間の入院での照射計画も予定しています。今後順次お知らせして参りますので、よろしくお願い申し上げます。

今後の地域医療計画等に沿って、地域の急性期病院としての役割を果たすべく、連携先の医療機関の皆様とは速やかな症例の循環を念頭に置いた医療を進めていく所存でございます。

来たるべき未来を見据えて努力してまいりますので、本年もなにとぞよろしくお願い申し上げます。



整形外科専門センター開設のお知らせ

令和8年1月より、当院整形外科は専門性をさらに高め、患者さんに最適な医療を提供することを目的として専門センターを開設しました。



副院長・整形外科部長
伊藤 圭吾

脊椎脊髄センター



センター長
松本 智宏



副センター長
神原 俊輔

名古屋市中央～南西部地域における脊椎外科の中心施設として、累積1万例以上の手術実績を有しています。加齢変性進行による高難度症例・再手術例を多数扱い、他院で対応困難な症例や遠方・海外からの受診にも対応しています。地域の脊椎脊髄外科の「最後の砦」として、今後も高度専門医療を提供してまいります。

人工関節センター



センター長
笠井 健広



副センター長
牧田 和也

変形性関節症や関節リウマチなどによる関節の痛みや機能障害に対し、人工関節置換術を中心とした専門治療を行っています。

人工関節置換術に際しては、MAKO Robotic-Arm Assisted Surgery Systemを用い、術前計画に基づいた高精度かつ安全性の高いインプラント設置を行っています。

さらに、人工股関節置換術では、ALS (Anterior Lateral Supine) アプローチを導入し、低侵襲で円滑な術後回復を目指しています。

大腿骨近位部骨折センター

高齢者に多い大腿骨近位部骨折に対し、多職種連携による包括的治療体制を構築しています。



センター長
木下 晋

骨粗鬆症マネージャーを中心に、医師・看護師・薬剤師・リハビリスタッフ・栄養士・医療ソーシャルワーカー等が連携し、

1. 可能な限り受傷後48時間以内の早期手術
2. 地域連携によるリハビリテーション継続
3. 骨折リエゾンサービス (FLS) による二次骨折予防

を3本柱として診療を行っています。

術後早期から骨粗鬆症評価・薬物治療を開始し、治療前には歯科口腔外科による口腔内評価を実施します。退院後も当科とかかりつけ地域医療機関が連携し、継続的な治療と転倒予防・栄養指導を行います。

当院は専門センター機能を最大限に活用し、急性期治療後は速やかに患者さんをかかりつけ医へお戻しし、継続的な診療体制を支援することで、地域全体の医療連携に貢献してまいります。対象となる患者さんがおられましたら、ぜひご紹介ください。

治療と仕事の両立を支援しています！

治療と仕事の両立支援相談窓口のご案内（全疾患対象）

当院では、患者さんが、治療を受けながら安心して働くことができるように、両立支援コーディネーター※（MSW等）が相談に応じています。厚生労働省によると、がん患者の場合、診断を受けた時点で退職・廃業した方は約2割いることから、気軽に相談できる体制が求められています。



相談内容としては以下のとおりです。

- 「病気でも仕事はつづけられるのだろうか」
 - 「仕事を休んだら、生活費や医療費はどうすればいいのか」
 - 「これからの治療、生活や仕事のことで不安がいっぱい」など
- 治療と仕事の両立に不安を抱える患者さんは少なくありません。



治療と仕事の両立に不安を感じている患者さんがいらっしゃいましたら、当院の相談窓口をご案内していただければ幸いです（当院以外の患者さんからの相談も可能です）。

【相談場所】 1F メディカルサポートセンター（治療と仕事の両立支援相談窓口）

【相談時間】 月～金（祝日を除く）8：15～17：00 電話 052-652-5511（代表）

（ご予約いただきますとお待ちせずにご相談いただけます。）

※社会保険労務士（労働・社会保険に関する法律・人事労務管理の専門家）による相談もはじめました！

令和8年1/13（火）、2/10（火）、3/10（火）14：30～16：00（予約制）

（相談例）「会社の人事・労務担当者に相談したいが、どのように話したら効果的か」等

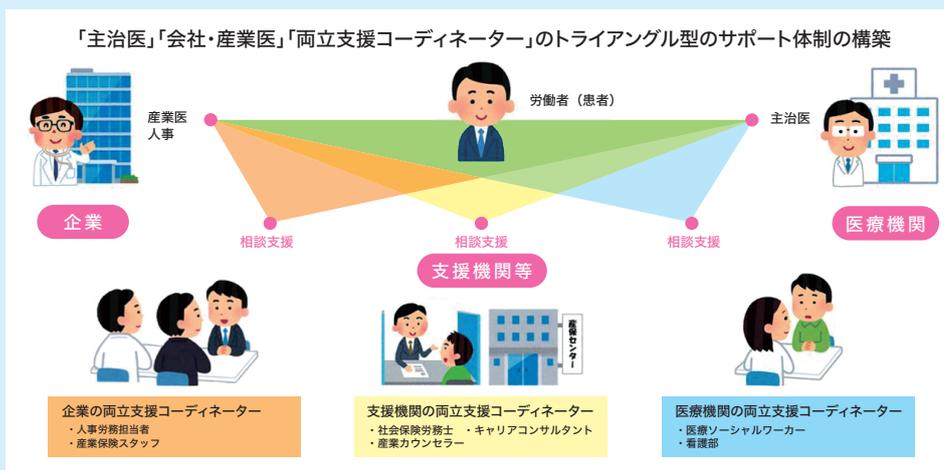
両立支援コーディネーターとは？

労働者健康安全機構では、厚生労働省の指定を受け、両立支援コーディネーター研修を開催し、約2万8千人のコーディネーターを養成しております（当院には、医師・看護師・公認心理師・理学療法士等88人在籍）。両立支援コーディネーターは、

患者さんからの相談に応じ、患者さん・医療機関・事業所間の調整をする役割を担っています（事業者との調整において、患者さんの代理交渉を行うものではありません）。

※令和8年度の両立支援コーディネーター研修開催日時は未定ですが、こちらからご確認いただけます

[両立支援コーディネーターの養成 JOHAS（労働者健康安全機構）](#)



地域医療連携室からのお知らせ

令和7年度第4回病診連携セミナーの開催のお知らせ

日時：令和8年1月22日（木）18時～18時40分 開催形式：オンライン配信（Zoom）

演題：「まぶたが下がると肩がこる？」 眼瞼下垂の病態と最新治療について

座長：港区医師会会長／クリニックおかだ院長 服部 満美子 先生

演者：中部ろうさい病院 形成外科部長 加藤 友紀



申込方法：申込URLまたは二次元コードを読み込んでいただき、専用フォームへ必要事項を入力のうえ、ご送信ください。 申込URL：<https://forms.gle/asMqynAr2fX5Wo8W6>

【TOPIX】眼瞼下垂の患者さんは形成外科へご紹介ください

こんな症状でお困りの患者さんは、もしかしたら眼瞼下垂かも

- 目が開きにくい
- 肩こり・頭痛・眼精疲労が強い
- 視界が狭くなった
- 物が見えにくい 等々…



実は…



40歳以上の日本人は多かれ少なかれ全員まぶたが下がるとも言われています。視界の狭さや目の疲れ、肩こりなどの症状は、眼瞼下垂が原因の可能性があります。

大きな手術になるの？



手術時間は、片目で20分、両目でも40分程度です。1泊2日程度で、日帰り手術も可能です。まずは専門医へご相談ください。保険診療での治療となります。

紹介先は？



形成外科へご紹介ください。予約方法は診療予約申込票を地域連携室へFAX、又はインターネット予約。インターネット予約のお申し込みは地域連携室（052-652-5950）へご連絡ください。

メディカルサポートセンター

平日 8:15～19:30 TEL 052-652-5950 FAX 052-652-5716

院 長：丸井 伸行 連 携 課 長：伊東 康（医事課長）
セ ン タ ー 長：篠田 典宏（院長補佐） 連 携 係 長：今関 信夫（医事係長）
地域医療連携室長：秋山 幸一（事務局長） 事 務 担 当：今枝 智子
入退院支援部門長：鈴木 陽子（看護副部長）